



ガラシャ祭りのパレードに参加し、温泉まんじゅうを配布して伊豆の国の知名度向上に一役買いました

ルの交流を継続する中、同七月には市長、市議会議長が長岡京市長へ表敬訪問。また長岡京市長、議長も当市誕生式典に出席するなどを経て、同十一月には当市助役を団長とした友好訪問団が長岡京ガラシャ祭りに参加し、さらに平成十八年一月には、長岡京市友好訪問団が当市鶴ばらい祭へ参加してくれました。

このように市民への長岡京市に対する理解を深めていただく活動を重ねながら、今年九月議会で市議会の同意を得て、市民の総意として改めて姉妹都市盟約の締結が実現する運びとなりました。

長岡京市プロフィール

長岡京市は京都・大阪の二大都市を結ぶ軸の中心に位置し、北は向日市と京都市、東は京都市、南は大山崎町、西は大府と接しています。中央部は阪急電鉄、東部はJR京都線や東海道新幹線が通過し、また、名神高速道路と国道171号線を結ぶ京都第二外環大山崎JCT・ICに近く、交通の便に恵まれています。市域の6割は平たんな可住地、残りはタケノコ栽培で代表される西山となっています。



「そうだ京都へ行こう!」と思わせる光明寺の紅葉

長岡京市の歴史は古く、すでに弥生時代に農耕が行われており、建国神話に関係のある神を祭る神社や壮大な古墳が現存しています。6世紀にはおとくにの都、8世紀には長岡京と二度も都として栄え、近畿地方における産業・文化の先進地でありました。その後の封建時代には、再三戦禍を受けながらも、皇室・公家・寺社等に細分して領有され、平和な農村として明治時代に至りました。

明治22年町村制の実施によって、3カ村となった新神足・海印寺・乙訓が、昭和24年に合併して、長岡町が誕生しました。同34年ごろから日本経済の目ざましい成長に伴い、京都・大阪両都市の衛星都市として、住宅建設や工場進出が目立ってきました。急ピッチで都市化が進行し、昭和45年には人口が50,000人を超え、昭和47年10月に市政を施行しました。



現在人口78,414人となった長岡京市は、春は長岡天満宮のキリシマツツジ

や乙訓寺のボタン、夏は楊谷寺のアジサイ、秋には光明寺のモミジなど、四季折々の魅力があります。また昭和63年に中心市街地整備方針を策定し、平成17年の春にJR長岡京駅西口駅前広場、公共施設の整備が完了し、同年6月の広場公園の完成で、東の生活拠点として、新たな長岡京市の顔としてスタートしました。

- 市章** 『長』の文字を図案化し、重なった円が住民の和と発展する年輪を表しています。
- 市の木** モミジ
- 市の鳥** メジロ
- 市の香り** 凜とした青竹の香り



【ガラシャ祭】
長岡京市が誇る重要な歴史遺産の一つである勝龍寺城が、勝龍寺城公園として平成四年に復興したのを記念して、天正六年（一五七八）に細川忠興へ嫁いだ明智光秀の娘「玉」のちの細川ガラシャ夫人の「愛と感動の物語」を象徴した市民のまつりとして、平成四年十一月に第一回が行われました。

祭は、お輿入れ行列や歴史文化行列・町衆祝行列などが市で行われるほか、多くの団体の参加によって楽市楽座が行われます。毎年、十一月の第二日曜日開催されます。



調印書に署名する望月伊豆の国市長と小田長岡京市長

市民レベルの交流を

長岡京市と姉妹都市盟約を締結

伊豆の国市と京都府長岡京市との姉妹都市盟約の締結調印式が十一月十一日、長岡京市の中央公民館で開かれました。両市の行政や議会、友好団体の関係者ら約百人の参列者を前に、望月良和伊豆の国市長と小田豊長岡京市長は、調印書に署名した後、握手を交わし、新たな友好発展を誓い合いました。

長岡京市は、同じ『長岡』の名前にちなんで、旧伊豆長岡町と姉妹都市縁組をしており、合併後も両市は、地元の祭りやスポーツ大会などに互いの訪問団が参加するなど、交流を続けていました。

伊豆の国市長、議長はじめ行政団十四人と友好都市交流協会訪問団三十一人が参加した式典では、長岡京市の小林眞一助役が、関係者ら約百人の参列者を前に調印書を朗読。その後望月、小田両市長が調印書に署名し、固い握手を交わしました。

小田市長が「締結を機に、両市の友好交流と協力関係がより一層発展することを願います」と式辞を述べると、望月市長は「市民交流を深め、両市にとってさらに有意義な

締結としていきたい」と話しました。

市旗と記念品の交換が行われた後、小石原範和京都府副知事から来賓の祝辞をいただき、石川嘉延知事からの祝電披露、両市の式典参列者が紹介され式典はつつがなく終了しました。

また式典終了後、姉妹都市盟約締結祝賀会が開催され、これからの姉妹都市交流についての話に花が咲きました。

締結の経緯

旧伊豆長岡町は、昭和五十九年十一月に長岡京市との姉妹都市盟約を締結後二十二年間、旧伊豆長岡町の伝統的な祭や商工祭、長岡京市の『ガラシャ祭』など様々なイベントへ参加するなど、住民相互

